

## 令和4年度 学校評価 久下小学校パワーアッププラン

### 1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	(1)日常生活に人権尊重の理念が根つき、いじめや差別のない学校づくり (2)個の違いを認め、多様で柔軟な対応による居場所のある学校づくり (3)児童や保護者、地域の人々と真摯に向き合い、信頼される学校づくり (4)職場に誇りと愛着をもち、組織の一員として働きたいのある学校づくり
本年度の重点目標	(1)児童理解を深め、いじめ・不登校ゼロで安心・安全な学校づくりをめざす。 (2)ICTを積極活用し、児童一人ひとりが主体的に学び合う授業づくりをめざす。 (3)家庭・地域と連携し、体験活動を通してふるさと久下を愛する心情を育む。 (4)タイムマネジメント意識の醸成と協働体制により、働きたいのある職場をつくる。

### 2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生徒指導	・安全・安心を基盤に、児童の内面理解を徹底し、いじめや問題行動に対する共通認識を高め、いじめの予防・早期発見・早期対応を組織ワークで取り組む。	B	・休み時間の見守りや、教師間での情報の共有を行い、役割分担をして対応することで、友だち同士のトラブル等に早期に対応し、解決していくことができた。 ・児童の実態を鑑みて、毎月の生活目標を設定し、毎月、クラスや個人で振り返りを行い、目標の達成状況を可視化することで、多くの児童がルールを守って気持ちよく学校生活を送ることができた。 ・しかしながら、学校生活の中で困っていたり、困っていても相談できずにいたりする児童もいる。児童のSOSを教師自身が見逃さずキャッチできるスキルや、児童が安心してSOSを出せる雰囲気作りに努めていく。
	地域との連携	・地域の教育資源を活用することで自然や伝統文化に触れ、ふるさとへの誇りを醸成していくための特色ある教育を推進する。	A	・学校運営協議会等と連携し、各学年の学習内容に合わせて地域の人材活用を進め、各学年において、地域へ出かけたり、ゲストティーチャーに來校していただいたりして、いろいろな方の話を聞くことができた。その活動の中で、地域の人たちの思いに触れ、温かさを肌で感じ、地域の中で育てられていることを実感していくことができた。 ・これまでの活動も大切に引き継ぎながら、さらに地域で活動されている方々の情報をキャッチし、子どもたちが地域のことを知り、誇りに思える活動を進めていく。
	組織運営	・危機管理を含めた協働体制の確立に努める。  ・働き方を見直し、働きやすい職場環境づくりに努める。	B	・職員間の報連相を大切に、危機管理意識を持って指導に当たっている。問題行動が生じた際は、きめ細かな組織ワークで迅速に対応できてきている。ただ、学校における危機管理は様々な場面がある。至らなかつた部分はどこなのかを検証し、今後の教育活動に生かせるように組織的な取組をさらに強化していく。 ・週に1回、自己申告により定時退勤日を徹底し、ホワイトボードで設定日を可視化できるよう取り組んだ。定時退勤日を意識する気持ちは高まったが、退勤時間を超過してしまうこともまだあり、改善は難しい状況である。さらなる定時退勤を推し進めていくために、組織的に取り組みを強化していく。 ・業務内容の見直しやICT等を有効活用した業務改善を行い、計画的に進められるよう取り組んだ。当たり前をやってきたことを見つめ直し、思い切って変更してみることで、新たな方向性を模索することができた。勤務時間適正化のための工夫を共有していくことで業務改善の可能性をより一層広げていく。
	学習指導	・各教科においてリーディングスキル(RS)の育成を視点にした授業改善を行う。 ・ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働	B	・各教科において児童の読解力を向上させるためRSの育成を視点にした授業研究を行った。多くの児童は言葉の意味を考えながら文章を読んだり、絵や図と文章を結び付けながら読んだりする意識が高まった。さらに豊かな語彙や確かな読解力を身につけるためには、各教科だけではなく、日常的な取組を教師自身が意識していかなければならない。今後も発達段階に応じてRSを育成できる授業改善を行う必要がある。

教育課程		的な学びを実現できる授業づくりを行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中でICTを活用し、一人ひとりに応じた学びや学び合う活動を行うよう授業改善を行った。一人一台のタブレット端末の活用は進み、高学年ではICTを活用することが当たり前になりつつある。しかし、ICTの効果的な活用、児童の発達段階に応じたスキルの育成、教師の研修など、全職員で共通理解をし今後の活用につなげていく。</li> </ul>
	道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の時間を中心に、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、よりよく生きるための道徳性を養う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の年間指導計画をもとに、ワークシート等を活用しながら、授業の前後で、児童の価値の変容がある授業実践に取り組んできた。</li> <li>重点教材をもとに、同和問題をはじめ、身近な問題の不合理やおかしさに気づき、1年生から系統的に人権教育に取り組むことで、自分も相手も大切にしている。</li> <li>しかしながら、困っている友だちに対して、声をかけたり助けたりすることに戸惑いがある児童も見受けられる。今後も道徳の時間を中心に、人としてどう行動するかについて考え、生活の中で実践していける力を培っていく。</li> </ul>
課題教育	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>困り感のある児童一人一人に応じて、適切に支援する授業づくりを進める。</li> <li>合理的配慮の観点に基づき、正しい理解を図るための啓発を適宜行う。(児童・職員・保護者に向けて)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する児童についての校内研修や児童理解交流を行うことにより、全職員での理解を深めることができた。しかし、人的にも環境的にも、まだ十分な支援体制を整えることはできておらず、今後も個に応じた柔軟な体制・授業作りを進めていく必要がある。</li> <li>教育支援委員会の随時開催により、合理的配慮を踏まえた、児童の実態に応じた支援体制作りを行うことができた。</li> <li>さまざまな配慮を要する児童に対して、全校啓発や日々の取り組みにより、お互いを認め、大切にしようとする意識は高まってきている。今後も、保護者との連携を密に行い、子どもの良いところを伸ばす指導を行っていく。</li> </ul>

### 3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果の集計については、学年ごとの発達段階によってどうかをみてみても良いと思われる。児童の思っていることと保護者が思っていることには隔りがある。少数の否定的な回答をした児童や保護者がいるので、その意見も大切に、すべての児童が安心して学校生活を送れるように、今後も支援や指導を継続していく。</li> <li>地域からの協力の度合いは高いと思う。様々な行事を通して子ども達は地域住民とふれあいができている。</li> <li>先生の退勤時刻は以前に比べて早くなっている。臨時的雇用やボランティアについては、あれば人を紹介して手助けをしたい。</li> <li>授業では、高学年を中心に、子どもたちはタブレットに慣れてきている。児童のリーディングスキルやICT活用力の向上に向けて今後も、それぞれの教師が得意な分野を生かして指導や研修を進めていけたら良いと思う。</li> <li>子どもたちは自分からあいさつをしようと頑張っているが、保護者は更にしっかりとあいさつのできる子になってほしいと願っている。</li> <li>支援を必要とする児童の数が増えてきている。特別支援学級の児童も皆と一緒に学ぶ機会があり、ひとりひとりを大切にもらっている。今後も特徴特性のあるところをしっかりと見極めて伸ばしていけば良いと思う。今後も個々に応じた支援や指導を続けてほしい。</li> </ul>
---

### 4 次年度の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導に関しては、教師間の連携のみならず児童や保護者、関係機関との連携を密にしてアンテナを高くして児童のSOSを見逃さずにキャッチできるスキルや、児童が安心してSOSを出せる雰囲気作りに努めていく。</li> <li>久下地区ならではの地域連携の強みを活かしてコミュニティ・スクールを充実・活性化していく。</li> <li>基礎的な学力の向上をめざして、ICTを積極的に活用する場面とアナログで学習する場面を発達段階に応じて明確にし、児童が主体的・対話的で深い学びにつながるような授業づくりを目指す。</li> <li>「あいさつがしっかりできる」「自分も周りの人も大切にできる」心豊かでたくましい久下っ子を育成するため、人権尊重の精神を基盤に据えた学校運営に今後も継続して取り組んでいく。</li> <li>特別支援学級在籍児童が増え、支援を要する児童も多い。その子の特性に応じた関わり方や言葉がけ、居場所づくりなど適切な対応ができるよう、専門家、関係機関との連携を密にして研鑽を積み、支援体制の充実を図っていく。</li> </ul> <p style="text-align: center;">令和5年3月10日  学校名 丹波市立久下小学校  校長名 藤原義行</p>
--